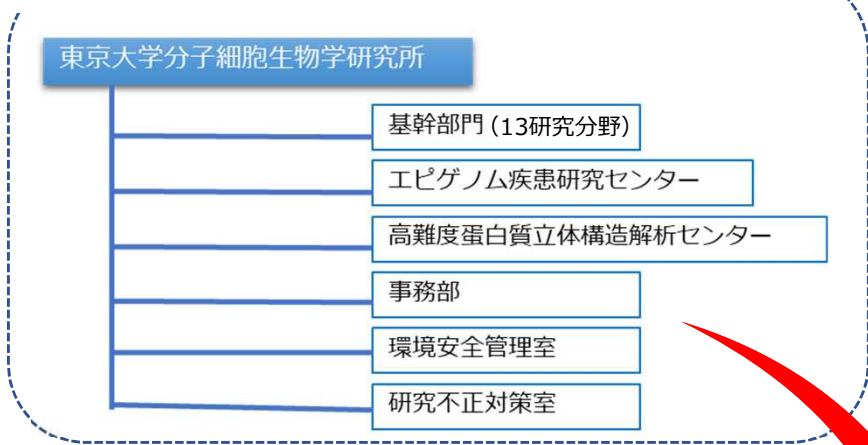


これまでの分子細胞生物学研究所



運営

中核となる研究施設の共通化。大講座制による運営など研究室の垣根を越えたオープンな研究環境の実現。若手研究者が独立するためのスタートアップ支援など、若手の支援体制の強化。

● 中央実験室

実験動物の管理、可視化技術、ゲノム解析技術、質量分析技術などの基盤技術を中央化した中央実験室の設置。

● 学生支援室

学生の孤立化を防ぎ、研究指導の充実とモニタリングを図る相談窓口の設置。

● 研究倫理推進室

倫理教育・不正防止システムの構築、論文投稿前の画像データスキャンによる不適切画像の洗い出し、論文投稿生データと論文データの照合などのシステム整備。

教育研究内容

● 生命動態情報研究領域 (生命動態研究センター)

生命動態情報研究領域では可視化技術を中心とした定量化技法、モデル化技法の開発とその教育研究を行う。

● 高度細胞多様性研究領域 (高度細胞多様性研究センター)

高度細胞多様性研究領域では特に一細胞、一分子の定量的解析手法の開発とその教育研究を行う。

● 先端定量生命科学研究領域

先端定量生命科学研究領域では、タンパク結晶構造の様々なレベルでの解析技法の開発、染色体の動的構造の定量的解析技術の開発に基づいた研究、数理生物学に基づいた生命動態のモデル化技法の開発とその教育研究を行う。

● 応用定量生命科学研究領域

応用定量生命科学研究領域では、上記の各分野から得られる成果を創薬、医学、工学、農学などの応用研究に展開し、産業イノベーションを加速させるための教育研究を行う。

定量生命科学研究所

